

平成 22 年 4 月 28 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19791732

研究課題名（和文）オストメイトの患者教育に対するプログラム開発研究

研究課題名（英文）A Study for Developing a Program for Ostomate Patient Training

研究代表者

芥川 清香（AKUTAGAWA KIYOKA）

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号：80364181

研究成果の概要（和文）：本研究では、オストメイトに対する患者教育の一貫として、オストメイトと看護師による参加型学習による患者教育の方法を確立することである。これまでの研究では、看護師からの一方向的な指導ではなく、オストメイトと看護師による双方の相互主体的学習が必要であることがわかってきた。この学習は、成人教育を基盤とした新しい患者教育方法であり、オストメイトの自己管理能力を高める学習として効果的であることも明らかになった。さらに、高齢のオストメイトは、看護師のみではなく看護学生と一緒に学習したいという新たな学習ニーズもみられ、アイデンティティ保持に大きく結びついた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to establish a method for training ostomates, the patients having ostomies, through participation by both ostomates and nurses. An accumulation of our research results in the past has revealed that the patients suffering intestinal or urinary diversions through ostomies are in need of mutual and proactive training instead of unilateral instructions given by nurses. The mutual proactive training is a new educational method for patients, based on the continued adult education method. This study has made it clear that our training method has demonstrated the effectiveness for enhancing the self-managing capabilities of ostomates. In the process of our studies, we have also observed a desire among aged ostomates for participation in the training not only together with nurses but also with student nurses. It seems that the training course is beneficial for patients in maintaining their identities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	0	600,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	390,000	2,290,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：看護学，教育学，成人教育学，患者教育，オストメイト，健康教育，人工肛門造設術，WOC看護師

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

人工肛門造設術を受けた患者（オストメイト）は、障害者として一生涯を過ごさなければならぬため、セルフケアの問題や障害に対する心理的葛藤など、様々な個人的かつ社会的問題を有しており、社会復帰は困難を極めている。最近ではオストメイトに対する自立支援の必要性が注目され、ストーマ外来や相談室を設置する施設が増えており、継続的に患者教育を行う支援体制が広がりつつある。しかし、オストメイトの自立に向けた具体的な患者教育方法について、学術的視点から検討されたものはない。また、「誰から」「どのような」患者教育を受けることが効果的かを検討することも極めて重要である。これらの社会的・学術的背景を踏まえて、日本オストミー協会福岡県支部と協力しながら健康教室を開催し、患者教育のシステム化や方法論について研究を重ねていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、オストメイトの患者教育のシステム化の一貫として、患者教育方法に関する具体的なプログラム開発を、実践を通して理論的に明らかにすることである。そのために、①患者会・医療機関・企業・大学の枠組みで、健康教室を実施し、患者教育のシステム化と実践方法に関するプログラム開発を図る。②オストメイトと看護師による教材開発を行うために、オストメイトの学習ニーズについて調査する。③患者教育の方法論を確立する。

3. 研究の方法

(1) 患者教育の方法論に関する文献レビューを行う。日本看護科学会誌（1981年発行～2007年）27巻と日本看護研究学会雑誌（1978年発行～2007年）30巻から、患者教育研究の歴史の変遷を明らかにした。また、戦後から現在まで継続的に改訂、出版されてきた教科書から患者教育内容の変遷をみると、1952～1966年までについては高等看護学講座、1967～現在までについては系統看護学講座を選定し分析した。

(2) オストメイトと看護師による参加型学習を行う。対象者は日本オストミー協会に所属しているオストメイト20名、WOC看護師4名、看護師9名。方法は、毎月1回の健康教室の中で、講義形式の学習後に、WOC看護師とオストメイトの個別学習を設ける。どのような学習ニーズを求め、いかなる教育効果が得られたのかを、オストメイトに半構造化したインタビュー調査を行った。インタビューの内容は、対象者の了解の下に録音し、その状況を記録した。分析は、テープに録音されたインタビュー内容から逐語録を作成した。

逐語録を一行ずつ読みながらキーワードを中心にカテゴリーに類型化した。

4. 研究成果

(1) 医学中央雑誌に登録された患者教育に関する研究数は、2000年以降に増加している。また、日本看護科学会誌（1981年発行～2007年）27巻と日本看護研究学会雑誌（1978年発行～2007年）30巻、そして戦後から現在まで継続的に改訂、出版されてきた看護教科書134冊から患者教育内容について分析したところ、1950年当初から患者教育は看護師の役割として認識されているものの、その教育方法については述べられていなかった。1970年代になって患者の権利宣言の影響を受け、学習理論などを取り入れた患者教育方法が積極的にみられるようになった。1990年以降は、入院日数の短縮化や慢性疾患患者の増加により集中的な学習支援型の教育内容が発展してきた。しかし、看護師独自の教育的関わりや教育方法について未だ明確ではないことが問題としてあげられる。

(2) オストメイトの学習ニーズは〈継続〉〈技術〉〈知識〉〈生活〉の4カテゴリーに分類できた（表1参照）。ストーマケアに対する知識や技術を、日常生活という経験を通して精神的にサポートされながら継続して学習できるような教育体制を求めていることが明らかになった。特にオストメイトは、子供のような将来活用できるような知識や技術を教えこむ学習ではなく、それらの学習が熟知しやすいように、具体的かつ個人的で、即時的な解決を得られるような学習が適している。そのために健康教室を実施していくことは、オストメイトがストーマとよりよく共生できるように、自己のもてる力を発揮して生活が送れるための一助になることを明らかにした。

表1 学習ニーズ

サブカテゴリー	カテゴリー
他機関との連携(21)	継続(44)
緊急時の対処方法(13)	
継続的な学習(10)	
ストーマケアの方法(19)	技術(21)
洗腸方法(2)	
ストーマに対する知識(10)	知識(15)
他選択肢(5)	
日常生活の仕方(8)	
社会生活の仕方(5)	

一方、WOC看護師4名と看護師9名について、オストメイトの患者教育についてインタビュー調査をしたところ、〈患者教育の認識〉〈患者教育の時間〉〈他部門との協力体制〉〈教育目標〉〈患者教育内容〉〈教育評価〉という6カテゴリーに分類された。特に患者教育の認識と教育評価については、WOC看護師と看護師の差異もみられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 芥川清香, 看護学生の安全意識を高めるための一事例報告, 九州教育学会研究紀要, 査読有, 34巻, 2007, 155-160.
- ② 芥川清香, 勝山吉章, 看護学実習における経験型実習教育の検討, 福岡大学人文学部紀要, 査読有, 39巻, 2007, 309-325.
- ③ 芥川清香, 江口瞳, 看護学実習で学生が取り組んだリスクマネジメントの実際と教育的支援, 日本看護学会論文集看護管理, 査読有, 37号, 2007, 151-153.
- ④ 芥川清香, 奥祥子, 安酸史子, 成人看護学実習における教師の実践的力量の検討, 福岡県立看護学部研究紀要, 査読有, 5巻, 2008, 9-18.
- ⑤ 芥川清香, 吉岡さおり, 安全・安楽な移動動作援助の提供に関する学生の考察, 看護展望, 査読有, 34巻, 2009, 84-88.

[学会発表] (計5件)

- ① 芥川清香, 江口瞳, 看護基礎教育における安全教育の取り組み, 第17回日本看護教育学会, 2007, 福岡.
- ② 芥川清香, 吉岡さおり, 安全・安楽な移動動作の提供に関する学生の考察, 第34回に本看護研究学会, 2008, 兵庫.
- ③ 芥川清香, 看護学実習におけるコミュニケーションに関する学生の学び, 第44回日本教育方法学会, 2008, 愛知.
- ④ Kiyoka, A., Mariko, Nishikawa, A systematic review of changes in patient education in Japan, International Council of Nurses(ICN)24th Quadrennial Congress, 2009, Durban, South Africa.
- ⑤ Kiyoka, A., Mariko, Nishikawa, Historical changes in patient education in Japan, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2009, Kobe, Japan.

[図書] (計5件)

- ① 中津川順子, 芥川清香, 他, メディカ出版, 成人看護学, 2007, 225.
- ② 中津川順子, 芥川清香, 他, メディカ出版, 成人看護学 - セルフマネジメント -, 2008, 106-126.
- ③ 中津川順子, 芥川清香, 他, メディカ出版, 学習の特徴と看護, 2008, 28-32.
- ④ 中津川順子, 芥川清香, 他, メディカ出版, 成人看護学 - セルフマネジメント -, 2009, 106-126.
- ⑤ 中津川順子, 芥川清香, 他, メディカ出版, 学習の特徴と看護, 2009, 28-32.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

芥川 清香 (KUTAGAWA KIYOKA)

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号: 80364181

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: